

日米文化協会50周年 記念シンポジウム

2010/02/14

テーマ「児童英語表現能力の育成法」

by Miyuki Naito

<イントロ>

岡山市清水にMiyuki Academyという小さな英語スクールを開校（開講）しております。

平成14年秋の開校から今年で7年半。まずは10年を目標にがんばっています。

プライベートでは、小学校5年生&2年生の二人の子の母。

【1】Miyuki Academy 設立までのあゆみ

今回「児童英語能力の育成法」ということでパネリストをお引き受けしましたが、今日私が焦点を当てたいのは「英語表現能力の育成法」について

私自身の「英語表現能力向上への興味の芽生え」は中学時代のライシャワー杯参加にさかのぼる井の中の蛙、ド田舎者の私に大きな喝と刺激を与えてくれたのがスピコン。

表現すること、人前で自分を堂々と表現できる能力、どうしても身に付けたい！！と思った。

表現力は英語に限ったことではなく、日本語・芸術・マスコミ関係の仕事で大いに重宝された。

自身の経験から身に付けておいてとても役立ち人生トクする、そんな能力を伝えていきたい！！

【2】Academy 設立5年目以降に見えてきたもの（私の目指すもの）

8年前、上の子が3歳、下の子が産まれてまだ間もない頃、ある英語スクールを見学したのが運命。表町のフランクリンスクールで代表の鈴木さんと話しているうちに意気投合。

「小さくてもいいから地元で貢献できるスクールを！」

「真の国際人を育ててきたい。そのためにできることをお互い連携し合ってやっていきましょう！」

全面的にサポートしてもらって、H14年にMA誕生。

国際人とは・・・

～日本人であることを誇りに思い、ツールのひとつである英語を使って、
世界に向かって「自分」を堂々と表現できる人材～

*「夢を持ち、それを達成しようという志」のある生徒を育てたい！

フランクリンスクール一体となつての取り組みスタート

【3】真の国際人を養成していくための取り組み（フランクリン一体となつて）

*日本語クラス

昔、寺子屋で行われていたのは「素読」

古典・近代の名作を朗々と素読する。そこで得られるものはうわべだけでなく

子供たちの心の中に芽生える安定感・自信・言葉のセンス・発表力

自分を語るには言語が必須。日本語を通してしかできない目標。

何を語り、どのように自分を表現できるか。

バランス感覚の優れた生徒の育成が必須。

外国であろうと国内であろうと、国際的な感覚を持った子供たちを育てていくのに必要なものは・・・？

英語をうまく話せること、のほろほろがなく、英語が話せる以前に必要なこと

日本人としてのアイデンティティーを確立した上で話す英語が本物の国際語

東北大学の川島隆太教授は、『音読』という行為が、最も脳を活性化させることを科学的に実証されました。

●【子供日本語部門】の『スーパー素読クラス』は、子供たちの脳を活性化させ、思考力、伝達力、理解力を磨き上げます。それは、彼らの“勉強力”をも向上させることを意味しています。

●更に付け加えるならば、大きな声で美しい日本語を読み上げた時の感動と爽快感には、その人の態度や性格までも変えてしまう力があります。

***フランクリン杯 英語・日本語スピーチコンテスト開催**

レッスンや日常の学習で身につけたものを発表する場。

自分を表現できる場をどんどん与えてあげたい。

毎年開催し今年度5回目を1月末に終えたばかり。

英語力のみならず、デリバリー・表現力・態度も重要な審査項目。

生徒の着実な成長（トータルな本番力） 本番へのプロセスを大切に。

反省点を次へ生かすチャンスに！

***コーチングの導入**

小学生2児の母とし失敗談には事欠かず、なんてヒドイ母親だろう・・・と反省の日々だがその経験が教室での指導や人間関係構築に生かせないだろうか？

今にして思えば、開校から4、5年は必死だった。個人スクールができる最大限のことをしよう！！と必死に駆け回っていた時期。きっと「モーレツ先生」だったかも。

そんなとき言われたあるお母さんからの一言。

「先生は何のためにアカデミーをなさっているのですか？ ご自分の満足のためですか？」

今でも忘れられない強烈なメッセージに数ヶ月苦しんだ。

で、見えてきたもの・・・・・・・・

「熱意とか、モーレツとかそればかりじゃなくて、もっと楽しくみんなが幸せになって、生徒、保護者、私の関係がスムーズで効果の上がる方法はないかしら？？」

そういう方向に初めて目を向けるきっかけになった。 怪我の功名か・・・・・・・・！

そこでであったのがコーチング。

プロのコーチ資格を取得後、コーチングを本格的にレッスンに導入して生徒に変化が。
本人のゴール設定。それを達成させるための取り組み

「本人・指導者・親」の理想的な三角関係（コミュニケーションの成り立った）の根底は
「ゆるがない信頼関係」

生徒のタイプや優位感覚をしっかり理解した上での指導（私）・サポート（親）
セミナーを通して親にもしっかりと伝授（家庭での母の役割は大だから！）

<まとめ>

表現能力の育成には、英語力向上以外のさまざまな要素がある。

その中で、アカデミー&フランクリンで実践し効果を上げているのが、

「日本語クラス」「スピーチコンテスト」「コーチング」などを通して

【自信づけ】【ゆるがない信頼関係】【目標や夢達成に向けて本人自らやりとげようとする力】を育む
こと